

第10課 「ユダヤ人と異邦人のための贖い」

*時々私たちは、神様から特別扱いしてほしいと願う事がある。それは決して悪い事ではないと思う。なぜなら皆そうしていただきたいと願っているからである。そして、神は私たちのそうした願いをちゃんと受け止めて下さり、実際そうして下さっている。ある意味、人類は皆、神から特別扱いされている存在である。「わたしは自分が

憐れもうと思う者を憐れみ、慈しもうと思う者を慈しむ」(ローマ 9:15、出エジプト 33:19) とは全人類を対象としてい

る言葉である。そして、神の御旨に従い使命を委ねられる人々(選ばれた者、残りの者)は他者の救いのために献身する者であり、各々に与えられた賜物に従って感謝しつつ奉仕する。掃除

1. 使徒パウロの苦悩と神の導き

- **神が望まれる事**：「イスラエル」とはヘブル語で「神は支配したもう」「神は闘って下さる」という意味があり、神の民を表す言葉である。イスラエル人に与えられた使命は異教信仰、偶像崇拜に浸った世界に福音を伝える事であり①イスラエルが人類の模範となることにより、真の神に心に向かせる事(計画)。②イスラエルを通して神の品性が啓示され、世を神に引き寄せる事(目的)であった。そして、③救い主の初臨に備え、キリストを掲げ贖いの恵みに人々を導くのであった(出エジプト 19:6)。
 - **悲しみと痛み**：パウロの「深い悲しみ」と「絶え間ない痛み」(ローマ 9:2)とは、同胞であるイスラエル民族の不信仰に対するものであった。パウロにとってそれは耐えられない程の悩みであり苦しみであった。それはイスラエルに対する深い愛によるものであった。
 - **血筋によらず組織によらず**：神はイスラエル民族であるから救われるのではない。イスラエル民族の内において、信仰によって神に忠実である者が救われ用いられた。愛の実践を伴う信仰によって生きる者が「残りの者」「選ばれた者」としての使命を受ける(ローマ 9:6~8)。そこで、イスラエル民族とセブンスデー・アドベンチストを比較してみる。教会は神を信じる者の群れであり、私たち一人一人が教会を造り上げる。そして「神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける」者、「イエスの証し」を持つ者としての召しと使命と責任がある(黙示 14:12、19:10)。私たちはセブンスデー・アドベンチスト教団に所属するから救われるのではなく、セブンスデー・アドベンチストとして神の御旨に従って信仰によって生きる者が「残りの者」となり用いられ生かされる。
- *時々「セブンスデー・アドベンチストでなくても救われるでしょう」という声を聞く事がある。必ずしも否とは言えない。しかし、セブンスデー・アドベンチストとして導かれた意味を考える時、そこには終末のメッセージを神に託された者としての選びと、その召しに応えた尊い責任と希望、神からの信頼があるのではないかと思う。セブンスデー・アドベンチストである事は神の導きであると理解したい。
- **選ばれた者として**：ローマ 9:12~13に示されたヤコブとエサウの例は、決して神が差別をされるという事ではない。パウロはそれを強く否定する(ローマ 9:14)。そこには神の選びと憐れみの本質が語られている(ローマ 9:15)。憐れみ、慈しもうとしておられるのは全人類だからである。ただし、人の思い通りに神がして下さるのではなく(人の願いや力)、あくまでも主権は創造主なる神にある。
 - **悪役として立てられた者**：出エジプトにおいてファラオは悪役として立てられてはいるが、神が最初から悪役に仕立てた訳ではない(むしろ全人類意は罪人で皆悪役)。神に敵対する罪人と、神に従う罪人を摂理的に導かれている。ファラオもまた、神に愛される存在であり、常に改心のチャンスが与えられていた。私たちは神に造られた器であり、どのように用いられるかは作り手が決められる。全ての人は神に造られ用いられている。それは救いに必要な役割を担う器として使われる(ローマ 9:17~24)。私たちはふさわしくない用い方をしてはいないだろうか？

2. 極端な選民意識からの脱却

- **背信のイスラエルと異邦人**：ローマ 9:25~26において、ホセアは背信のイスラエルの事を語っているが、パウロはホセアの言葉をダイナミックに解釈し、全人類を対象としつつ異邦人に対して用いている。「ロ・

アンミ」(ヘブル語で「わが民でない者」)が「アンミ」(わが民)に、「ロ・ルハマ」(ヘブル語で「愛あされなかつた者」)が「ルハマ」(愛される者)になる事は、神の恵みであり、信仰によって実現する。

- **困難と悩みの中にあっても**：神は悲しみと痛み(大きな失望)の中にある者を励まし、「残りの者」を備えられる事を示される(ローマ9:25~29)。私たちは、霊と真実とをもって祈り、信仰によって固く立ち、回復を求め、回復を求める。私たちは「残りの者」となることができるだろうか?セブンスデー・アドベンチストとしての使命を持つ者として、神に立たせていただく事を心より願う。全ての人類を愛する神の御旨を承り、行ない、神に對する信仰の復興と、正しい礼拝の回復を求めつつ、神の摂理と導きの中に生きる事を願う。
- **つまずきの石**：イスラエルは律法による行いを重視するあまり(行ないによる義)、救い主を受け入れなかった。結果的にイエスが彼らの「つまずきの石」となった。これは実のところ、彼らの不信仰が「つまずきの石」となったのである。イエスを受け入れ信じた異邦人たちは、「信仰による義」によって神に受け入れられた。彼らは信仰による神の民(霊的イスラエル)として召され用いられた(ローマ9:30~32)。私たちも異邦人であるが、信仰によって義とされた者として神に用いていただきたい。